

カトリック 仙台教区報

2001年8月20日 No.141

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

編集責任者 田中丈夫

平和旬間に寄せて

仙台教区 司教 溝部 脩

今年の平和旬間は、ヨハネ・パウロ二世教皇様の来日二〇周年を記念して、全司教参加のもとに平和祈願祭が広島で行われます。新しい世紀を迎えて、日本のカトリック教会は平和への誓いを新たにすることを表明するためです。

仙台教区の皆様には、これを機会に今一度広島での教皇のメッセージの読みあわせをすることを勧めます。

教皇様は、不戦の強い決意と過去の歴史をしっかりと見直し、お詫びの気持ちを表しています。

日本の司教団も、度々平和

への決意を表明してきました。それでもあえて今回はそれを繰り返して表明しています。私たちも教皇様とともに、平和への誓いを言動をもって表明したいものです。

平和への誓いとは、戦争を通して人々を傷つけた過去を深くお詫びすることも含まれています。

お詫びということで、去る五月十一日のハンセン病患者へ国が謝罪した事件がありました。国が対策を怠り、それに対して国が賠償すべきとの判決を、国が認めた事件でした。(聖母の騎士八月号参照)

この判決で特に留意

意したい点は、「不作為による責任」(怠り)が問われたことです。考えてみますと、私たちもこの「不作為による責任」を多くのことで問われ



ていることです。「不作為による責任」については、難しい課題が私たちに提供されています。すべての社会問題にかかわることなど不可能なことです。それでも、思い、ことば、怠りによって、私たちは罪を犯したことを神様に告白するのです。社会に起こる出来事にしっかりと目をとめて、そして常にそれとかがわった祈りを捧げ、必要に応じて、そして自分ができる範囲で社会とかがわっていくつとめがあるのです。

平和旬間を迎えて、私たちの平和への決意がいかなるものであるかをしっかりと吟味してみましよう。又これを機会にお詫びすることが何であるかを見定めるようにしまし

生命の泉

今イエス様のメッセーが福音と理解されるのはどんな条件がある時なのだろうか。

2 レプタ銅貨を献金した「貧しいやもめ」のように人事を尽くして後は神様にすがり以外にどうしようもなくなつた人には福音と受け取ることが出来るであろう。それは切実に今の状況から抜け出したいからである。この度のハンセン氏病患者の救済は、立法か行政の責任かは知らないが、個人的なレベルでも思い当たることがある。苦しんでいる人に関心を持つて生きることは福音に生きる者としての姿勢である。その点では福音は私たちに「目覚めていよ」と迫る。先日、司教様が青森の各教会を訪問した折、司祭が不在になつた教会での話し合いで「せめて月に二回位」聖体をいただければありがたいのですが」とか「教会の維持が十分に行き届きませんで申し訳ありません」など教会と信仰を精一杯守っている様子を心動かされたと言っておられました。権利・責任管理といったはやりの言葉ではない姿に信仰が息づいている。(守)



平和への祈り
切り絵 佐藤勇次

青森 篠田教会

八月十五日被昇天の聖マリアの祝日、夕方六時半からミサが行われる。今年、仙台教区長溝部脩司教様がおいで下さることになっている。司教様と共に捧げるミサは、特別の感動で私共を包むにちがいない。

篠田教会は、一九七二年十一月に献堂式が行われ、来年で三十周年を迎える。本町教会から分かれて、青森市の西部地区に作られた。初代主任司祭は現ケベツ

ク宣教会管区長のヴィンサン・フロラン神父であった。保護の聖人は「日本聖二十六聖人」である。信徒数約百名であるが、普段の日曜日のミサには、約二〇名が参加している。

若者が少なく、高齢化が進んでおり、また男性が少ない。婦人部の皆さんが、教会を支えてくださっている。

同じ西部地区には松ヶ丘教会があり、パウロ・ラヴオア神父様が兼務している。大掃除やバス遠足などには、私共

も参加し、交流を深めている。

ラヴオア神父様は休暇で帰国中に体調を崩された。一日も早い回復とお帰りを皆で祈りながら待っている。(二唐)

宮城 気仙沼教会

去る六月十日、三位一体の主日に、溝部司教様をお迎えし、堅信式が行われました。前回の堅信式は一九八四年でしたので司教様による堅信式は実に十七年ぶりのこととなります。信徒一同その日の来

各地から

るのを心待ちにしておりました。

一ヶ月前から秘跡を受ける為の勉強を始めた信者十一名全員そろって秘跡を受けることが出来ました。

堅信式ミサの後、司教様を中心に岩手 一関教会「聖堂近くにトイレがほしい」との

度々の声

に、昨年

一月運営

委員会で

検討を重



ねた、鐘楼の下に車椅子と男子用のトイレを作る」という

案には、鐘楼は神聖な場所と考えていただけに多くの反対がありました。代案として聖堂の左側に案は、聖堂の採光が基準以下になる、自転車置き場の処に案は、独立した建物で防災的に考えると経費が高くなる等々、建築家でもある土井神父様から鐘楼の建物を損なわず、給排水、臭気にも留意した設計図や工事について説明があり、昨年

九月より維持費で一部負担する他、二年間に渡

つての募金が始まりました。今年五月末、完成したトイレは扉を開くと電気がつき、車椅子利用も便利で、清潔感にあふれています。業者への支払いも無利子で仙台教区設備協力制度の方から一時お借り出来たことは幸いでした。(及川)

福島 いわき地区 湯

本教会創立者の故ダビオ神父は、真言宗智山派三箱山法海寺の先代の住職と昵懇の間柄にあつたそうで、このお寺に

宗派を問わない霊園墓地造成の計画のあることを知り、ドミニコ会からの援助を得て、湯本、小名浜、勿来の教会墓地として譲渡契約を結んだと聞いています。三十年以上前の話になります。二〇〇一年三月、三教会の代表者によつて墓地委員会を組織しましたが、委員会を組織する必要に迫られたのは、信徒の中で、急いで墓地を必要とする方からの問い合わせに取得の手順をお教えできないという事実があつたことと、教会の生き字引といわれた伝道師さんも

帰天され、信徒一人一人の記憶もあいまいの状態に至っているという現状からです。墓地委員会を組織して、つくづく感じていることは、重要なことを後継者にどう伝えていくかということです。(高木) 記念写真を撮り、幼稚園ホールで溝部司教様の歓迎会を兼ね祝賀会が行われ、楽しい交流の時を過ごしました。好天に恵まれた、すばらしい堅信式でした。(小山)

文芸

短歌



仙台 野辺達二郎
米州のいへづとに播きし草花の黄に輝きて群れ咲きにけり

庭の草摘まんと歩み近よれば
可憐な花にしばし佇む

いわき市 てるこ

心にも目にもしみ入る新緑のこの水無月にそぼ降る雨かな

新緑の中に佇むマリア様
このルルドも幾年重ねし

俳句

仙台 佐々木由岐子
校庭に聖母像あり入学す

山に霧天の御わざと思いけり
からす瓜口ザリオ坂の径険し

ステンンドグラスの聖画耀ふ
夏日かな(紫山白百合)

* * * * *

募集

川柳・短歌俳句・詩など皆様の作品をお寄せください。

(仙台司教区事務所まで)

第二九回カトリック宮城大会

テーマ：明日の仙台教区に向かって

去る七月一日(日) 築館町

栗原文化会館を会場に第二十九回カトリック宮城大会が開催された。仙台市以外の会場で行われたのは初めてとあって、多くの参加者は各地区、

各教会から貸切バスや、マイクロバス、乗用車などで会場に向かった。晴天に恵まれたこともあり、参加者は、およそ五五〇名、ホールはほぼ満員となった。

大会は、聖歌「ガリラヤの風かおる丘で」に始まり、大会会長上野隆氏(西仙台教会)



の挨拶、オリエンテーションなどの開会行事につづいて「明日の仙台教区に向か

って 世俗化の社会に生きる信仰」と題して仙台教区長溝部脩司教の講演が行われた。

講演の中で、溝部司教は、江戸時代に迫害の中で信仰を守りつづけた信徒たちや当時の教会の話を織り交ぜながら、

世俗の真つ只中にあつてキリストの福音を伝えるのはまさに信徒の役割であること。現代社会が世俗化の波にのみこまれ、超自然的な価値を認め

なくなつてきた中で、普遍的な価値観と、祈りと観想と活動のバランスのとれた生活の中で、新しい福音を伝えることによつて世を変革していかなければならない。「なげきぶし」でなく、今からはじめれば三十年後には何かが変わっているはずだ。と集まった各

教会の信徒に熱く語られた。

次にアトラクションとして郷土芸能「薬師太鼓」の演奏が行われ、和太鼓の軽快なリズムと迫力満点の響きをしばし堪能した。

昼の休憩では、各教会ごとにお弁当を食べたり、互いに交流を深めたり、ロビーに出店されたミニバーをのぞいたりと思ひ思ひの時を過ごした。

午後は一時三十分から、ミサが行われた。ミサは司教様と十六人の司祭による共同司式で行なわれ、古川教会、川井啓神父の齒切れのよい又わかりやすい説教の後は思わず会場から拍手が沸いたほどであった。(岩井)



シュミドリン神父様からのお便り(抜粋)

日本からのお別れの時色々とお世話になりました。多くのラジオ、テレビの放送、新聞の記事などによつて、私もなんとなく盛岡人になつていたではないかと感じました。

お別れの時ちよつと面白いことがありました。出発の直前、教会に泥棒が入つて小さい手提げカバンが盗まれてしまいました。手提げカバンだけは成田までのJR切符、

中には成田までのJR切符、ホテルのクーポン、パスポート、飛行機の切符と現金が入つていました。東京への切符をすぐ新たに手配しました。

次の日の午前中早々スイス大使館へ行つて、わずか四〇分で新しいパスポートを作ってもらいました。待つている間にスイス航空へ電話しました。ここも問題なし、ちよつとの手数料で飛行機の切符を再発行していただきました。ここも問題なし。成田の入国管理事務所でも簡単にビザと出国スタンプをパスポートに押ししてもらいました。こうして個人のお金の損害のほかに困つたことはありませんでした。

皆さんに心配をかけてすみませんでした。飛行機は大変静かで、起つたことを考えずによく眠つて十二時間半の飛行でありながら、いつの間にかスイスに着きました。

ベトレム宣教会の本部では病人または老人のために、病院並みまたはそれ以上のすばらしい設備があります。昼も夜も看護婦がいます。生活のために必要なものはすぐ与えてくれます。

体に気をつけていますが、今のところでは問題がありません。まったく自由に動きまわっているかをわからないほど元気ですが、時々やはり疲れたり、特にフエーン現象のとき体はなんとなくおかしくなります。

ここでもう一度皆さんに感謝してベンを起きます、ではなく、ワープロを休みます。

祈りのうちに、
シュミドリルン・ヨセフ



郡山教会学校 『夏の集い』

八月一日から二日にかけて「フォレストパークあだたら」で行われた。小学生十六人、中学生四人が参加。十人前後のご父兄が協力してくださった。

「夏のつどい」

中学三年 古川 真和
本当に楽しい時というのは時間が過ぎるのがはやい。自由時間や川遊びでは自然にふれて楽しかったです。動植物は何がおちつくものがありました。虫の音を聞きながら夜は静かに気持ち良く過ごせま

した。反対にづらいことや疲れることは時間が過ぎるのが遅く感じました。山登りは一番つかれて苦しかったです。少し登るだけだと思っていたら一時間以上歩きました。でも川を渡ったりして自然にふられたので良い思い出になりました。本当におもしろい夏の集いでした。

「みんなと行った夏のつどい」

小学4年 福田 夏生
僕は、夏のつどいに行つていっぱい思い出ができました。一つ目は、さわ遊びに行つたことです。さわ遊びは、ボールを打つてとったり上流から中流に流しました。滝があったのでその下にたつて「し

私の気分転換

司祭の家 深沢 守三

愛猫シロの世話をし神父に託して、カナダ九日間の旅に出た。素適な旅だったので、爽快な気分が帰ってみると、シロがいらない。食欲不振で入院させたという。し神父のいじめに遭ったのかも。「入院料は三万円なそうだとケロリとした顔をしているところを見ると、彼の気分は爽やからしいが小生は鬱。

早々病院にシロを迎えに行く。六日間の監禁から開放されたシロは、満面ニコニコ。その笑顔を見た途端、小生の気分も鬱から躁ならぬ爽に転換。時として、気分転換なんて他愛も無いもの。いずれにしても、し神父には謝罪。シロの入院料半額を支払ってくれたら、もっと謝罪なのだ。無理。



ゆぎよう、しゆぎよう」と言つて遊びました。水はつめてくたくまひしたけどすごく楽しかったです。二つ目は、おんせんです。おんせんは、二つ、水ぶろは一つありました。まず、室内風呂に入つて、そのあとで水ぶるに入りました。また同じ様に一周したあとに全部の風呂でぐるぐるがえりをして、あがりゆをかけたあがりました。ふるには二回入りました。そのあとでコーナーの風呂をわかししました。しんぶ様が入ると思つたのでたいていました。そしたらぼくが入りたくなつたのでみんなで入りました。おはだがすべすべになりました。とてもきもちよかったです。三つ目はごはんです。お母さんたちがつくつたごはんはおいしかったです。特に、おにぎりがおいしかったです。四つ目はしんぶ様とシスターの話

活動紹介

カトリック正義と平和

仙台協議会

「ハンセン病予防法」に基づく国の隔離政策の下で、長い間、差別と偏見に苦しんでこられた方々に、心よりお詫び申し上げます。これまで、国策」を無批判に受け入れてきたことに、私たちは反省の念でいっばいです。全面勝訴の判決を勝ちとられたハンセン病回復者の方々が、人権回復の第一歩をしるされたことを心よりお慶び申しあげます。私たちはこれまでの不作為（怠り）を反省し、「キリストの正義」を実現していくために努力していきたいと思えます。

代表 渡辺 清

修道院紹介

殉教者聖ゲオルギオの

フランシスコ修道会

山目マリア院

岩手県一関市に私たちの会は二つの支部があります。

一九六一年秋この地に結核療養所がありました。当時療養所は患者の激減によって経営が立ち行かなくなつていました。これをベトレム宣教会が社会福祉事業をすることを条件に営林署から払い下げてもらつたところに開設されました。教会には授産所が併設されスイス人の司祭が司牧しておられました。このように教会は社会事業と共に始まり発展してきました。

今、修道女はドイツ人一名を含めた七名が児童養護施設の中でそれぞれの役割を果たしています。

人口六万人弱の小さな町の中でイエスのみ教えは、子供達を通して浸透していると思えます。日本が豊かになるにつれ子供の不幸の概念も変わってきましたが、信仰をあかすることにより励まされ希望と喜びのうちに成長することを願いつつ、祈り感謝の日々を過ごしています。